

そして、こういう試験を成績決定の指標にすることによって、学生のやる気も大きく促進できる。まず、授業成績が教員の恣意的な判断によるものではなく、客観的な指標（TOEFLの場合、グローバル・スタンダードと言ってもよい）によるということで、受け取る成績に対する学生たちの理不尽感や不公平感が激減する。また、よいスコアを取っておけば、就職や大学院進学に有利であるほか、海外インターンや留学の道まで開けるのである。学生たちにとって、これほどの発奮材料はほかにあまりないであろう。多くの学生たちがそれを十分理解したうえでそれぞれの目標を定め、受講しに来ている。よって、喜んで英語の猛練習をするのである。

いずれにせよ、この形式の授業にしてから受講生たちの英語理解力が飛躍的に伸び、それがTOEFLのスコアに如実に現れるようになった（受講生平均点：470-480 → 500-530）。週に一度の授業でできることの限りを尽くした感がないでもないが、今後の課題として、comprehensionのみならず production 能力開発のためのアクティビティーの導入がある。これが更なる「英語脳発達」に役立つと思われるからである。しかし、より現実的なのは、ここで紹介した講座はそのままにして、それとは別に、production 能力開発をその主たる目的とする講座を作り、この講座をその prerequisite とすることではないか、と考えている。

大学英語教育における TOEIC の活用 —導入から今後の課題まで—

川辺 孝（東京電機大学）

1. はじめに

東京電機大学情報環境学部は2001年4月に開設され、既存の大学・学部では余り見られない数々の斬新な試みは、新聞・雑誌などのマスコミに度々取り上げられて来た。例を挙げると、全科目を基本的に選択制にした結果、英語も選択科目となり、学生は英語を1科目も取らずに卒業することが可能となった。そこで、将来役に立つ実践的な英語力が身に付き、学習・教育目標を立てやすく、学習・教育効果を測定できる英語教育プログラムを作成した。尚、本稿における記述は、2004年3月末現在のものである。

2. 本学部の特色

- (1) セメスター制：全ての科目は半期で完結する。前期は4月に始まり7月に終わり、後期は9月に始まり12月に終わるので、留学がしやすい。
- (2) 単位従量制：授業料は、基礎額に加え、履修単位従量額（15,700円×単位数）を支払う。そのため、各履修科目に対して授業料を支払っているという意識が強い。
- (3) GPA制度：各科目の評価にポイントを与え、それに科目の単位数を掛ける。これをすべての科目について求め、それらの総和を総単位数で割ったものである。本学部では、前セメスターのGPAにより、履修できる単位数の上限を決めている。
- (4) 全科目選択制：原則として、全ての科目を選択科目としている。ただし、卒業に必要な

124 単位の内、素養科目（語学、人文社会系、自然科学系等の科目）を最低 40 単位、専門科目を最低 60 単位習得する必要がある等、いくつかの条件がある。

3. 英語教育プログラム

本学部では、1 年目前期に英語理解Ⅰと英語表現Ⅰ、後期に英語理解Ⅱと英語表現Ⅱを履修し、2 年目前期に総合英語Ⅰ、後期に総合英語Ⅱを履修するようプログラムが組まれている。他に、中・上級者を対象とする実践英語（前・後期）、理系分野特有の英語の習得を目的とする技術英語を開講している。更に、後期には、外国人短期留学生を受け入れていることに伴い、素養科目を英語で開講している。

- (1) 具体的な目標の設定：TOEIC の点数を半期で 50 点アップすること、卒業までに 550 点を取ることを目指している。
- (2) 少人数制クラス：原則として、全クラス履修者の上限を 25 名とし、各学生のニーズに合わせて木目細やかな指導をするよう努めている。
- (3) 50 分授業×週 3 回：英語に触れる機会をできるだけ増やすため、1 科目につき週 3 回授業を行っている。中・上級者を主な対象とする実践英語のみ、75 分授業を週 2 回行っている。
- (4) 習熟度別クラス：英語理解、英語表現、総合英語は、半期ごとに TOEIC の点数により、クラス分けをしている。これにより、履修者は、自分のレベルに合ったクラスで無理なく着実に学習することができる。

4. TOEIC 導入の背景

客観的に英語力を計る物差しとして社会的に幅広く定着している TOEIC を、開設年度より英語教育プログラムに導入した。年 3 回（4 月、7 月、12 月）TOEIC IP テストを学内で実施し、英語力診断、クラス分けの基準、学習・教育効果の測定などに利用している。

- (1) 社会的認知度：2003 年度の TOEIC 公開テストの受験者数は 586,510 人（内、大学生 151,552 人、短大生 4,655 人）、TOEIC IP テストの受験者数は 738,028 人（内、大学生 188,477 人、短大生 13,657 人）であり、公開テストと IP テストを合わせると、延べではあるが、受験者数は実に日本の人口の 100 分の 1 以上になる。
- (2) 就職活動：2003 年度の新入社員の TOEIC 平均スコアは、IP テスト受験者では 465 点、公開テスト受験者では 589 点となっている。では、企業が新入社員にどの程度の TOEIC スコアを期待しているかだが、標準スコアは 500 点で、更に 400 点から 550 点の間に 68% の企業が集中している。このことから、本学部が目指している「卒業までに 550 点」は、十分意味のあるものと思われる。
- (3) 結果が点数で示されること：TOEIC のテストは、結果が合格・不合格ではなく点数で示されるので、現在の英語力の把握、目標の設定、どの位英語力が伸びたかを測定するのに適している。また、データの収集、管理、分析、蓄積、共有がしやすいことも大きなメリットである。

5. 成果

学習の成果が点数で示されるので、英語の学習に対するモチベーションのアップ、維持に役立っている。土曜日の午前中を使って学内で実施される TOEIC テストは、中間・期末試験と

は異なった緊張感があり、TOEIC テストに向けて学生は地道に英語の学習に取り組んでいる。年度毎、学期毎に違いはあるが、1 年次生は比較的順調にスコアがアップする傾向がある。ただし、4 月に TOEIC テストを初めて受験する学生がほとんどなので、1 年次生の 4 月と 7 月の TOEIC スコアを比較する際には、テスト形式に慣れたことによるスコアのアップを割り引いて考える必要がある。

6. 今後の課題

現実には半期毎に 50 点アップを続けることはかなり難しく、また TOEIC の点数を伸ばすことが英語教育の目標になり得るのか、TOEIC で学生の英語力を総合的に診断できるのか、基礎力の無い学生に TOEIC が適しているのか等の検討すべき課題も多い。ただ、学習・教育目標の達成度が客観的な数値として表れることの効果は、学生、教員双方にとって大きいように思われる。今後も、本学部の学生、英語教育プログラムに合った、より効果的な TOEIC の活用法を考えて行きたい。

参考文献

- 1) 川辺孝：TOEIC を中心にした大学英語教育、外国語教育メディア学会第 111 回関東支部研究大会・総会発表要綱、pp.16-17, 2002.10.
- 2) TOEIC 運営委員会：TOEIC 公式ホームページ <http://www.toeic.or.jp>
- 3) 東京電機大学情報環境学部：ダイナミックシラバス <http://www.sie.dendai.ac.jp/ds/>

TOEIC 対策指導

— 授業内と授業外の実践 —

河野 円 (星薬科大学)

最近、薬学部においても TOEIC を受験する学生が増え、大学の英語教育カリキュラムにその受験対策を要望する声が強まってきた。しかしながら、実際には英語の授業時間数は極めて限られており、TOEIC に特化したプログラムを設けることは困難な状況である。そこで、教室の中（授業中）と教室の外（授業外）の両面で受験対策指導を行うことを試みた。まず、授業内のとりくみとして、1、2 年生対象の必修科目である英語の授業の中で一定の時間を TOEIC 対策に費やし、特に学生の弱点に着目して、効率的に得点アップを図る指導を行う。さらに、授業外の方策として、意欲のある学生のための援助を行い、英語学習の意識を高めることをねらう。無論、これらの対策は、一つの標準テストに対処するためだけの方策ではなく、学習者の英語力そのものの向上が最大の目的である。

1. 授業内での実践

週に 1 回の英語（必修）の中で、さらにその 1 部分の時間を用いて指導を行うとすると、焦点を絞った内容にしなければならない。学生の普段の授業態度を分析したり、TOEIC を受験し